

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	此花区
学校名	島屋小学校
学校長名	岡田 英士

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・島屋小学校では、第6学年 112名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本校の国語、算数、理科の平均正答率を全国平均と比べると、国語で2.8ポイント、算数で1ポイント下回った。理科では1.9ポイント上回る結果であった。【（平均正答率 全国／本校）国語66.8／64、算数58／57、理科57.1／59】

国語では、「漢字を使って書き直す問題」においては、正答率で全国平均より4.4～10.7ポイント低い。また、「情報の扱い方に関する事項」の設問では、6.1ポイント全国平均より低い。「C 読むこと」の領域の問題では0.2ポイント全国平均を上回っているものの、それ以外の領域では全国平均を下回る結果となった。

算数では、「B 図形」の問題の領域においては、正答率で全国平均より4.7ポイント低い。特に作図の問題で6.8ポイント、台形の意味理解の問題で8.6ポイント低いことが分かった。他の領域では、全国平均と比べてもプラスマイナス1ポイントほどの差であった。

理科では、全体で全国平均を1.9ポイント上回り、特に「生命」を柱とする領域では、全国平均より10.9ポイント高かった。問題形式別に見ても記述式の部分で全国平均を10.2ポイント上回っている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

今回の結果から「漢字」と「情報の扱い方」について他の設問よりも正答率が低いことが分かった。「漢字」に対しての取り組みとして、本校では、独自の漢字テスト、「しまや漢字検定」を実施し、児童も意欲的に取り組んでいる。目標得点に到達した児童には表彰状を発行して意欲を高めるようにしているが、目標得点への到達だけでなく、結果を振り返って習得をより確実なものにしていく必要がある。「情報の扱い方」については、「総合的読解力育成カリキュラム」に沿って各学年で実践している。実践の前には、他教科と関連付けを図る指導計画を立てる研修、学期の終わりには総読の実践を交流し振り返る研修を行っている。さらに子どもたちの成長に還元できるよう教材の研究をしていく必要がある。

[算数]

今回の結果から「作図」と「台形の意味理解」について他の設問よりも正答率が低いことが分かった。どちらも「B 図形」の領域であった。今後のさらなる指導の工夫はもとより、黒板に掲示する教具や子どもたちが操作できる具体物の刷新も順次していく必要がある。また、ICT機器を活用した教材の開発にも積極的に取り組んでいくことが、「B 図形」の領域には効果的であると考える。

[理科]

本校では、しまやガーデンという池のある様々な植物を植えた場所がある。理科の観察で活用されている。質問紙の「理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか」という設問では、80.4%の児童が最も肯定的な回答をしている。（全国平均では51.7%）

しまやガーデンの維持管理や指導方法の共有などを通し、今後も理科を担当した教員が同じように指導できるようにしていきたい。

質問調査より

「自分にはよいところがあると思うか」という設問に対して最も肯定的に答えた児童は、39.2%で全国平均よりも8.1%低かった。自己肯定感の低さが見られた。しかし、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の設問は、最も肯定的に回答した割合が52.6%で全国比で3.4%高く、人の役に立とうとする意欲は高いことが伺える。また、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについてわかるまで教えてくれる」という設問では、最も肯定的に回答した割合が56.7%と全国比で9%高かった。指導者からのサポートは感じられていることも分かった。

今後の取組(アクションプラン)

本校の児童には、おおむね基礎基本的な学習内容の定着が図られていることが分かった。全国平均と比べ、各教科の領域で見ると下回るものもあるが、大きく下回るものはいくつかの領域に限られ改善策も見出すことができるものであった。学校独自の取り組みである「しまや漢検」や「しまやタイム」を継続して行い、誰一人取り残さない細やかな個に応じた指導を目指す。学習指導の実践を振り返り、研修等で共有し、今後さらによりよい実践となるようにしていく。

児童質問紙の結果からは、自己肯定感を高めることは必要だと感じた。児童の様々な意見や考えを認めることや、頑張りに対する声掛けをさらに意識して今後も続けていきたい。また、昨年度と同様に「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについてわかるまで教えてくれる」という設問への肯定的な回答が全国比でも多かったことは、成果として今後も続けていく。